

・・・雨でも休まず、225回、226回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1、11月 3日（第一土曜日・文化の日）、本陣祭：定例活動に代える。
昨年と同じ石井さんとご一緒する。早めに行って手伝って欲しい。石井さんが旨い物を準備してくれる。
甲州街道沿いに「緑のダム」の旗が目印。参加費なし。
- ・ 定例活動2、11月18日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
参加費400円
 - ・ 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
 - ・ 服装：汚れても良い服装、着替え、長袖、夏は黒色を避ける、滑らない足元
 - ・ 持参品：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（碗・箸）飲料水
- ・ 注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

CO2削減活動：温暖化防止に不可欠な森林保護

地球の森林減少が進んでいる。2000年～2005年の間に3,660万haが減少した（資料：FOA・国連食料農業機関）。違法伐採が半分は占めているようだ。植林が1710万haあり差し引減少面積は、1950万ha（日本の国土面積の約半分）である。また、IPPC(国連の機構変動に関する政府間パネル)は「温暖化ガスの増える要因として森林の減少が全体の二割を占める」と指摘している。違法伐採取り締りと植林が必要だ。

当会のような、一介の森林NPOが、地球の森林減少問題や温暖化問題に言及する力があるかどうかだが、この10年、雨でも休まず・・・と森林活動を継続して来た団体だからこそ、声を大にして言わねば成らない。この小さな声も時間の経過と共に遠くに届くようになり、当会活動に参加した個人が各地に飛び散って今は、4箇所〔大月、鎌倉、湘南、五日市〕の活動に広がっている。津久井にも新しい活動の胎動がある。12月から新しい団体の参加もある。これは何も意図した訳ではないが、活動を継続してきたらそうなった。

「NPO 緑のダム北相模」の森林保全・再生活動の現場に参加すれば、実感としてCO2削減を体感することが出来る。当会の管理森林面積は、140haだが（CO2の固定化量は年間、126トン）、より多くの人々が森林保護意識に目覚めてくれる事が、地球温暖化防止の原動力になる。川崎ネイチャーフェスティバルのようなイベントを開くのは、森林NPOが都会に出て森林を広報をする理由は、ここにある。

* 小原本陣の森・定例活動：10月6日〔第一土曜日〕

10月7日（第一日曜日）は、当会最大の都市部〔川崎市〕に於ける“森林広報：第四回ネイチャーフェスティバル”。その準備のために主力は、川崎の会場設営に出向いた。

それ故、「雨でも休まない、小原本陣の森」には、精鋭：斉藤・白石・佐々木・石村の4人のみで“林道・作業道経路設営・設計”のために入会地・共有林に入った。このところ天候不順が続いていたが密植した暗い森の中では、差し込む陽光が味方してくれた。

午前中、この森：入会地の境界に精通している永井和美さんに道案内をお願いした。午後は、森に腕を上げた斉藤さんを先達に、地形を読みながら“生産林の森づくり”を念頭に経路設計に没頭し順調に“立木マーキング”を済ませた。

大久保沢上流では、名不明の茸群落、野生の山葵、沢蟹、ヤゴ、蛙 etc. 一昨年、整備終了している永井山斜面には、根を張る山アジサイが見事に群生しており、貴重なエビネの群落もある。

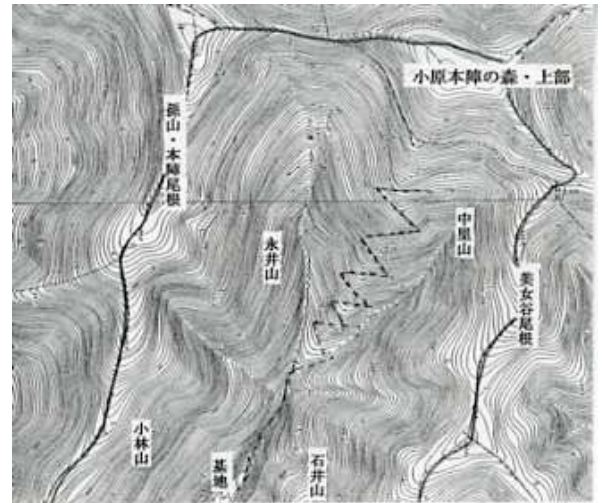
ファール佐々木の曰く「この森もまた、“若柳嵐山の森”同様、楽しい森林環境になりそうだな〜」。

相模原市はこの森を“相模原・市民体験の森”にしたい意向を持っており、この森を知ってくるに付け、それに相応しい森林であることを知らされるのだ。

* 小原本陣の森：整備前・整備後

今年3月、「緑のダム・湘南の森」の整備をしていたら散歩していた人から「余計な事をするな」と食い下がられ、何んと説明しても承知せず困った。F S C アンケートでも間伐などせず自然のままにしたほうが良いと言う人がいる。

今の日本の森林は、木が売れないから手入れをしないと言うことで荒廃の一途を辿っており、特に私有林は酷い状態だ。手入れの方法として間伐と言って木を間引きして伐るが誤った認識から間伐を自然破壊だと騒ぐ環境団体もいる。特に都会で公園掃除などを行っている人たちにこの傾向があ



根を張る山アジサイ

暗い森

ヤゴ、沢蟹もいる

野生山葵

る。本人たちは思い込んでいるので間伐の必要性を言ってもなかなか理解してくれない。そこで、放置林と手入れした整備林の比較写真を以下に掲載する。この写真は当会が整備している「小原本陣の森」林道行き止まり地点の“整備前入会地・放置林と整備後の森”の現在状況。

左：手入れ前



右：手入れして2年経過した森



若柳嵐山の森・定例活動：10月21日（第三日曜日）

このところ、ぐずっていた天気が嘘のような快晴。日大64名、望星高校11名、学生連合会員11名、緑のダム会員26名、計112名参加。日大は桜井教室の毎木調査（一定面積での樹木状況調査）実習。森現場に慣れていないと思っていた日大生の大量参加を心配したが、5班を編成して真面目で真剣な日大生たちは、楽しげに整然と黙々と、森林調査に取り組んだ。緑のダム会員と、もう森に慣れた学生連合Forest Novaがこれをフォローでした。

黙々と森を学ぶ若者たちの姿に、担い手の姿を重ねて、彼らに森の現場を提供できることを嬉しく思う。参加アンケートは、学生連合が原案を作成してくれて、次の桜井教室講義時に回収してもらうが、この結果は、当会活動の評価・通信簿になるだろう。

活動終了後の“若柳嵐山の森・運営会”は、このような多数・臨時の参加者にどのように対応するか他、短時間ながら意見の交換は有意義であった。



屋上緑化プロジェクト

報告：麻布大学 Green Nova 加藤 浩晃

Forest Nova のメンバーの多い麻布大学では、現在環境サークル Green Nova によって屋上緑化が行われています。

10月21日の嵐山の定例活動日に、佐々木さんや川田さんに手伝っていただきながら、学校で行っている屋上緑化に使用する樹木を頂戴しました。

ここで頂いた樹木を用いて屋上緑化を完成させ、それを見た方に環境や植物に興味を持ってもらいたいと考えています。そして、一サークルの活動で終わることなく、大学全体が屋上緑化に取り組むようになることを目指します。

この度はご協力、誠に有り難うございました。



町やお城や迷路...
子供達の発想力は
すばらしいです!!

オイスカ の つみ木

報告：Forest Nova 嶋本 祐子



私達 Forest Nova は緑のダム北相模との繋がりから、オイスカの活動に参加させて頂き、10月7日のネイチャーフェスティバル、20日のさがみはら市民活動フェスタでお手伝いをさせて頂きました。

オイスカの積み木は間伐材のヒノキで作られており、これらで遊ぶことによって子供たちに自然に興味を持ってもらい、創造性や協調性を育み、間伐材を流通させることを目的としています。

積み木に触れたり、香りを感じたりしながら、子供たちも間伐材の話を一生懸命聞いてくれました。

私達自身学ぶことも多く、オイスカの方々のように「人づくり」と「森づくり」活動を広めていけたらと思います。

望星の森の東海大付属・望星高校生や学生連合の大学生のような10代・20代の青年たちが毎月20人〜30人も当会の森林整備に参加してくれる。森林の将来を担ってくれる本当に大切な若人たちだ。同時に彼らに励まされているようにも感じている。当会の想いと実践をシッカリ伝えたいと思う(石村記)。

相模原市：小原宿活性化推進会議 9月29日（土）

一時は、今の高尾山の観光客数とほぼ同数の年間、250万人もの観光客あった相模湖が今は50万人を切ってしまった。そうなった理由は、中央高速道路が出来て相模湖を素通りして富士山や蓼科・白馬などに行くようになった事と地域が観光客を呼ぶ工夫をしなかったからだ。

相模湖より更に条件の悪い高尾山に現在、250万人もの観光客がきているのなら、相模湖町を合併した相模原市が、これを見逃す方は無い。

一昨年11月から、小原宿を核に相模湖地域に往年の賑わいを取り戻そうと、相模原市は「活性化計画策定検討会」を設置し、約1年を掛けて地区の人々と話し合ってきた。凡その見通しが立ったところで検討会を「小原宿活性化推進会議」と格上げして具体化する第一回会議が、小原集会議場で開催された。



会議では、1、古道復元チーム 2、古民家・特産食材チーム 3、孫山・周辺景観チーム 4、小原の郷活用チーム 5、本陣もてなしチーム 6、小原町並み保全チーム が結成された。

5年前に始めた「1、甲州古道復活事業：斉藤」は、JRや国交省を巻き込んだ活動に発展しているし、孫山を含む「小原本陣の森」は、すごいスピードで整備が進んでおり、毎年11月3日に開催される「小原本陣祭り」のお手伝いもしているなどのことから、小原の方々は当会をもう、よそ者とは見ておらず「3、孫山・周辺景観チーム：石村」、「6、町並み保全チーム：丸茂」にお手伝いしろと言うことである。

当会には夫々、手練熟達の人材がいることだし、スッカリこのプロジェクトに溶け込んで、こんな面白いことが出来る森林NPOが他にあらうだろうか。だが、嗚呼、ますます忙しくなっていく予感。

上；相模原市・戸塚環境経済局長

下：小原町・中島町内会長・当会議、議長

* 国交省相武事務所：甲州古道・夢街道：9月26日

5年前に相模湖町の当時、産業経済部長の岡本さんが出してくれた4本の道標受託設置が、豪いことになってしまっている。

最初はJR東日本が当会の調べた古道地図を使って駅から駅の道中マップを作ってくれた。次に

一昨年相模原市が“一緒にやりましょう”と行動を共にすることになった。

更に今年5月、国交省相武事務所から「甲州夢街道計画」に協力してよ」と言うことになり、古道班の佐藤洵さんの作ったデザインを採用して、アレヨアレヨと言うまもなく10月20日には、第一回目の「甲州夢街道ウオーク2007、&、フォトコンテスト」、開催と言うことになってしまった。



相模湖商工会館での「甲州・夢街道」打ち合わせ

その間、八王子市から「甲州古道の状況を聞かせて欲しい」と電話問い合わせがあり、更に小仏峠～底沢林道間を管理する神奈川県自然公園部からは、“一度、打ち合わせましょう”と言う話が進んでいる。何でも彼でも「好奇心を示した報い」が押し寄せてきているが、ホントにもう、一体どうしたものか・・・と嬉しい！。だが、ここはチョッと冷静に優先事項を決めてオーバーヒートしないように進めねば成らない。

***第四回：川崎ネイチャーフェスティバル：10月7日（第二日曜日）**

10/8日 (第3種郵便物認可) 東京

川崎市民の水源地になっている森林の再生について考える市民手づくりのイベント「ネイチャーフェスティバル」創ろう「ふるさとの森」・守ろう「水源の森」(同フェス実行委員会主催)が七日、川崎市幸区小倉の新鶴見操車場跡で開かれた。大勢の家族連れが訪れ、のこぎり引きや竹製のランタン作りなどに挑戦し、森や木の「恵み」を体感していた。

木の活用が 水源の森を守る

実行委によると、市に水を供給するが、そのためには間伐給している桂川(山梨県)・相模川(神奈川県)の水系が市に不足している。だが、同水系が市の水源地と知らない市民の手が入らず、荒廃が進んでいる。そこで、実行委は「木を使う森を守ることが水源の保全に役立つ」ということを訴えている。

会場では、家族連れが積み木や、のこぎり引き、木工教室などで、思い思いに木との触れ合いを楽しんでいた。竹に生地を巻いて、たき火で焼き上げるパウムクーヘン作りも行われた。大竹千晶さん(50)は「少し煙たかったけど、上手にできてよかった」と笑顔。

イベントを共催した、相模湖周辺で森の再生に取り組んでいる特定非営利活動法人「緑のダム北相模」の石村黄仁さんは「水源の森の大切さを知ってもらうには、実際に活動を見てもらえらるこつうイベントが大切」と話した。「イベントを通じて市民や市民団体のつながりが広がってほしい」と実行委の千葉美佐子さん。今後も間伐材を使った製品の流通の仕組みづくりなどに取り組んでいく。

幸区 **フェスで「恵み、体感**

10/8日 (第3種郵便物認可)

竹を使ったパウムクーヘン作りに挑戦する参加者—幸区で

て、市民に理解を深めてもらおうと、地域住民を中心に農園や花壇、森づくりが進められている操車場跡地の市遊休地で、森づくりイベントを開催した。川崎市や県、相模原市、水源の森を抱える山梨県、JR貨物の跡地に進出したばかりのバイオニアもイベントに協力。山梨県林業振興課の善積均さんは「水源の森のことを川崎市の市民にもっと知ってもらい、木材の利用が広がってほしい」と同県の取り組みを熱心にPRしていた。

(飯田克志)



満足気な康之君

今年は大気候が落ち着かない傾向で、どうなるかヤキモキしていたが、この一週間は安定しているとの天気予報。前日6日の会場設営準備も順調で、7日当日は朝から程よい快晴。午前10時の開場には準備万端。第四回とも成れば、開場前から隣近所を誘い合っ
て親子連れが集まってくる。

テーマは「木を使うことは、森を守ること」。“森林NPO：緑のダム北相模”が、川崎市の
環境保護団体：NPO 幸まちつくり研究会」と提

携して“都市と森林を繋ぐ”を合言葉に、それを相模川上流：山梨県・下流：神奈川県、そして、水源の森林・相模原市と水消費地・川崎市の2県2市の後援を得て開催。

普通、森林NPOは、森林地帯での活動だが、大都市川崎市まで進出しての森林広報に主要新聞が反応した。毎日新聞、神奈川新聞、産経新聞、東京新聞の4誌が取材に来てくれた。下記、東京新聞の報道。

甲州古道・夢街道：10月20日（第三土曜日）



この同日、午後は「相模原市の自然環境の保全・再生を考えるシンポジウム」に出席するが午前10時スタートの国交省が仕掛けた「甲州古道・夢街道」の開会記念式典に顔を出した。

いい塩梅に快晴に恵まれ高場からは富士山がくっきり見えて気温は、やや高めめの25度。コースは、JR相模湖駅前～小仏峠～八王子追分～大横町までの健脚向きには16km、のんびり向きには京王高尾山口～八王子大横町までの8kmが準備された。



挨拶する荻野相模湖商工会長

近年、年配者のハイカーが増えて特に、東京から近距離一日コースの陣馬・小仏ルートに人が集まる傾向にある。当会は、一昨年、小仏峠の景観間伐を展望に1/3程度をやっており今年、残りの2/3を計画している。沢山のハイカーが相模湖に来てくれるのは嬉しい。

環境問題は、もう、一般市民の普通の関心事になりつつある。当会が活動を始めた10年前とは隔世の感あり。

相模原環境情報センターを借り切った「相模原の自然保全・再生シンポジウム」は、元津久井町長天野氏をコーディネーターに相模原市の環境3団体（NPOこもれび、鳩川を守る会、NPO緑のダム北相模）をパネラーに真剣な討議を展開した。討議に先立って神奈川県・企画部から「神奈川の水源森林の保全・再生政策」の説明があった。



元津久井町長・天野氏

環境問題に熱心な相模原市内のリーダーが50名ばかりが参加してくれたが、ここでも学生連合の代表2名（二籐、大平）が、活発に発言して、会場内から環境に取り組む若人に励ましの声が上がっていた。

ここで特に注目の発言は、天野氏の「高度成長期は、森林を切り崩しながら宮が瀬ダムなど開発に注力してきたが、これからの時代は、自然環境を本来の姿に戻すことが我々に課せられた課題」と言う発言であった。

募集：「孫山・本陣尾根・景観ルート踏査：11月10日（第二土曜日）」

相模原市が取り組んでいる「小原宿活性化推進会議：孫山景観ルート班」が実施します。

日時；11月10日・10時 場所：小原の郷 持参：弁当・飲料水

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称：特定非営利活動法人緑のダム北相模：若柳嵐山の森、小原本陣の森

事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人：石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

H P：http://midorinodam.jp

E-mail：info@midorinodam.jp

協働団体：神奈川県（企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター）、セブナーイレブンみどりの基金、（財）オイスカ

ご支援の団体：WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金 神奈川建具組合